

956-13

昭和42年4月1日
昭和43年3月31日

事業報告
決算報告書

財団法人日本市民文化研究所

956-13

◇ 目 次 ◇

- (一) 事 業 報 告
- (二) 貸 借 對 照 表
- (三) 捐 益 計 算 書
- (四) 財 產 目 錄
- (五) 捐 益 金 處 分 案



(一) 事業報告

昭和42年度は、この事業を行った。

I 日本書民生活索引(全5巻)の完結
本年度は、第5巻、法無上人索引、
藤原経朝、兩通念佛縁起索引所の
の編纂を終り、総索引を付して、
1月上旬に刊行。これにより、全
5巻の完結をみた。

II 「民具辞典」の編纂

10回の編纂委員会をもち、執筆
項目の選定と、項目別字数配分の
原案作成を終り、おろせ、考古
学的資料より、いっしょに出土民具
項目表をつくり、その初出本位の
代表的遺跡、遺品を選定した。

III 漁業発展の地域的類型に関する研究
漁業史部会の発足とともに、部会
による、研究会形式でこれにより
可成り、焼津漁業の史的研究の
おこなわれた。



昭和42年度

借方(貸主)	貸方(借主)
金額	金額
97,516.00	1,715,000.00
11,309.00	210,000.00
	1,200.00
484,377.00	
200,000.00	

貸借対照表

勘定科目	金額
土地	21,672,800.00
建物	419,000.00
有価証券	360,000.00
預金	702,268.00
現金	2,698.00
入金	1,715,000.00
基金	500,000.00
通常取立	22,451,800.00
積立	912,738.00
出版印刷費	100,000.00
綿郵損	
棚卸在庫	
元借入金	1,715,000.00
預金	210,000.00
	1,200.00

借方(貸主)	貸方(借主)
金額	金額
21,672,800.00	419,000.00
419,000.00	360,000.00
360,000.00	702,268.00
702,268.00	2,698.00
2,698.00	1,715,000.00
1,715,000.00	500,000.00
	22,451,800.00
	912,738.00
	100,000.00

貸方(借主)	借方(貸主)
金額	金額
500,000.00	22,451,800.00
22,451,800.00	912,738.00
912,738.00	100,000.00
100,000.00	

借方(貸主)	貸方(借主)
金額	金額
21,672,800.00	419,000.00
419,000.00	360,000.00
360,000.00	702,268.00
702,268.00	2,698.00
2,698.00	1,715,000.00
1,715,000.00	500,000.00
	22,451,800.00
	912,738.00
	100,000.00

借方(貸主)	貸方(借主)
金額	金額
21,672,800.00	419,000.00
419,000.00	360,000.00
360,000.00	702,268.00
702,268.00	2,698.00
2,698.00	1,715,000.00
1,715,000.00	500,000.00
	22,451,800.00
	912,738.00
	100,000.00

昭和43年3月31日現在

借方(貸主)	貸方(借主)
金額	金額
21,672,800.00	419,000.00
419,000.00	360,000.00
360,000.00	702,268.00
702,268.00	2,698.00
2,698.00	1,715,000.00
1,715,000.00	500,000.00
	22,451,800.00
	912,738.00
	100,000.00



狀產目錄 昭和24年3月31日現在

昭和24年度 公益部

土地 21,672,800円
 建物 419,000円
 有価証券 360,000円
 預金 702,263円
 元入金 1,718,000円

土地係改訂昭和24年公益部概算表(新)決定資産標準單同様に據り算出被檢
 是と同額同1/10の増減 1055年及至2055年同様に算出 1055年及至2055年同様に算出
 2/3田新開闢1/3田新在木造 2/3田新開闢1/3田新在木造 2/3田新開闢1/3田新在木造
 所有建物木造 2/3田新開闢1/3田新在木造 2/3田新開闢1/3田新在木造 2/3田新開闢1/3田新在木造
 三番建設株式會社株券 2000株(1000株) 3000株(1000株) 6000株(1000株)
 全上 増資新株式 株券 1,200株 60,000円
 第一銀行定期預金 600,000円
 昭和銀行定期預金 1,000,000円
 運管預金 1,718,000円

負債之部

基本金 500,000円
 通常財産 22,461,800円
 資本金 912,738円
 出版準備積金 100,000円

第一銀行定期預金 600,000円
 貸付之商標(土地) 22,461,800円
 現在年度 益金 繰入
 出版準備金 1,000,000円

以上



収支部

資産之部
 預金 97,516.14 昭和25年12月31日
 繰越損金 454,377.00 既往年度之繰越損金
 棚卸在庫高 200,000.00 集解時同家文化

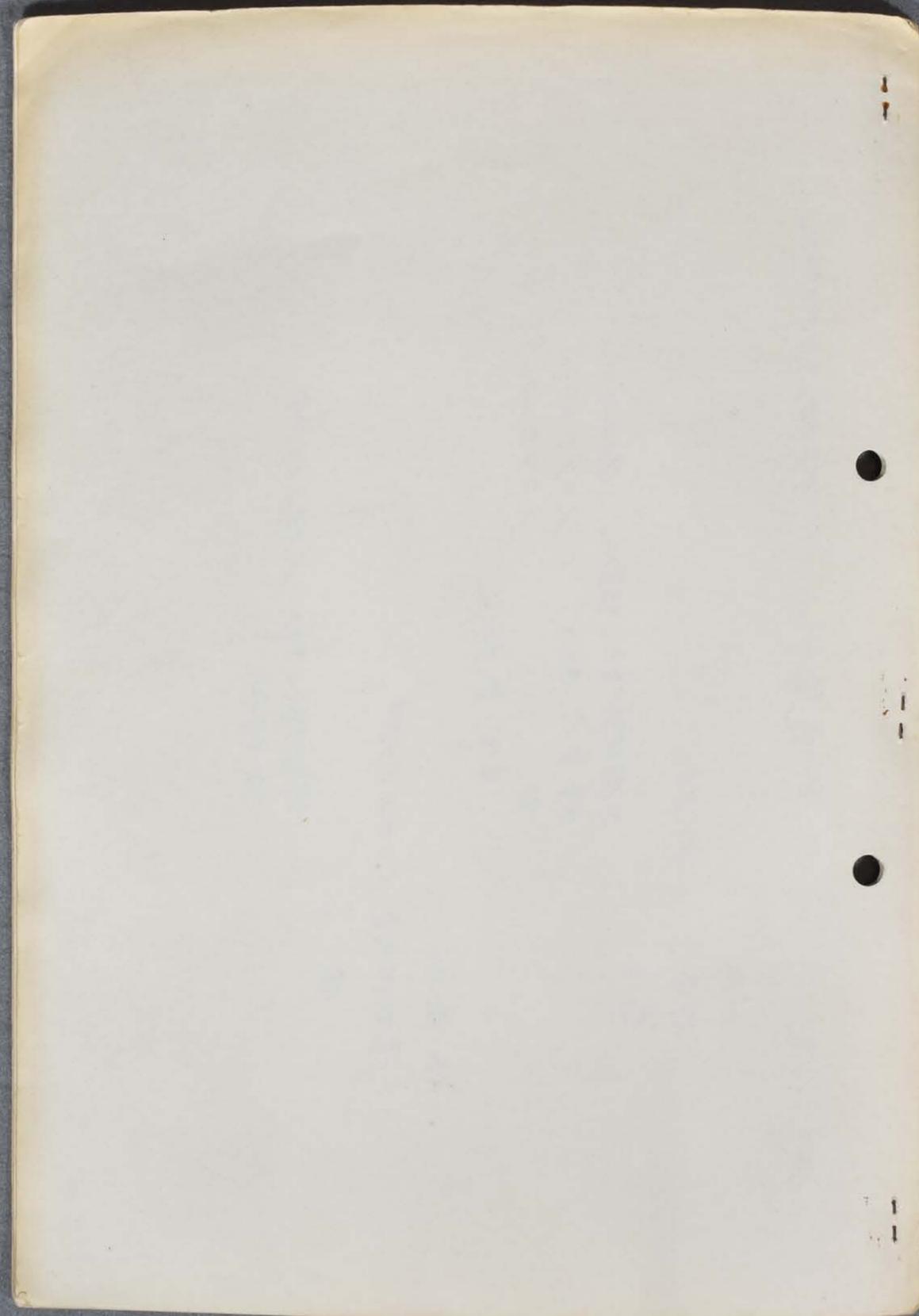
負債部

元慶金 1,715,000.00 監督費金上計会費部初元慶金
 借入金 210,000.00 運営費金上計会費部初借入金
 預金 1,200.00 昭和25年12月31日現在

以上



956-13



956-4

昭和43年度

事業計画

収支予算書

財団法人 日本市民文化研究所

(一) 事業計画

昭和43年度は、従前の「民具辞典」の編纂を完成し、発刊をこころ。あまたに、研究所として、東京近傍に、民具調査のフィールドをもつこと、その一環として、都下毎多摩の在来民具調査を3カ年の予定で行い、初年度は、青梅市内の予備調査を実施する。漁業史研究は、人物を通して近代漁業史をとりあげ、漁業史部会によつて控室をたかした。またその成果は、年報に掲載する。念願の年報は、秋、「民具研究」を1輯として刊行する。また地方研究同人をふくめた研究体制を整備し、各地の郷土博物館との連携をはかるために、4月より「民具マンスリー」(月刊)を発刊して行く。

I 「民具辞典」の編纂および「民具マンスリー」の刊行

前年度では、執筆項目の選定と、項目別言数取分の原案作成、それと存在言別資料より、いかに出土民具項目を抽出し、その初出年代の推定と遺品の表化を詰めた。そこで今年度は、たまたまに執筆項目の確定をはかり、執筆を決定



め了。そして、写真、図版の選定にあたり、
 これには、戦前にあつた研究同人の撰
 影にかかち、写真資料を検討する、同時に、
 村田沢牛氏による、中世絵巻物の複製が
 民具部分をクローズアップし、民具
 と常民の交済を明かすにすべく資料を抽出
 した。さらに考古学的資料より、出土民
 具の写真、ゼロックスを整備した。。
 「民具マンスリー」は、上記の辞典編
 纂の過程で生じたものであつた。研究同
 人間の連絡を緊密にしつゝ、民具方法論、
 採集過程を通しての問題提起等、民具研
 究の専門誌のたい現存、この小誌とこれ
 とをいふパンフレットを積極的に育つてい
 きたい。

II 在来民具の民俗学的研究

研究所再建の具体的あり方として、民
 具調査のフィールドを奈良近傍にもつこ
 を念願としてきたが、たまたま都下青梅
 市より、御土博物館建設にともなう、有
 形、無形民俗資料の調査委託をうけたの
 で、これを機会に、奥多摩地域をとりあ
 げ、民具資料の蒐集、整理、研究の場
 を、研究所自身がもつていこうといふ
 ことになった。

委託調査は3か年に向け、初年度は、



予算の関係もあり、青森市域内の、全部
 落王対象として、民具の存在度をしらべ
 させた。地蔵、庚申塔、板碑などの石造
 物の存在。また古文書の日録作成などに
 ともな、今後に必要な予備調査とする。
 比年度以降は、本格的調査として、予
 算も増大させ、奥多摩地域全般に調査地
 をひろげた。近時、札幌市、市街地開発
 や副都道路の開拓、住民離村など、民具
 環境の激変による、調査の緊急性に対処
 したい。

実施にあたっては、調査項目は、文化
 財保護委員会による「民俗資料調査収集
 の手引き」をもととす。研究所の民
 具台帳(カード)を作成し、逸集資料の
 整理をおこなう。

III 漁業史研究を通じての近代漁業 史の研究

上記は、さうかい前年度に、漁業史部
 会が発足をし、その研究会の共通課題の
 ひとつとして、山口和雄教授より提案され、
 実施していったものである。

明治期の日本漁業は、旧藩時代いさ
 の、沿岸・沖合漁業の成熟、本海にたい
 して、不もに本朝にはいきました。漁業にたい
 した根本主義の本格的展開をおこなった



ことによつて、日本の水産業の発展を考
 へる上について、あるいは比較漁業史の
 うえからいつても、もつとも皇親下
 時期であると思ふ。さうに明治以降
 の近代漁業史は、漁船の動力化を頂点と
 して、漁業技術の改良、築明、漁場の開
 拓がいろいろいひである。こゝに在る発展過程
 を、地域的特性とともに、漁業生産者と
 とらへた。人物を中心にとりあげること
 により、またその背景には、従来手がけ
 てきた漁業制度等の研究を主とし、「
 漁業生産者を通して見た近代漁業史」を
 まとめていきたい。

この方法としては、今後とも、部会に
 おける研究発表者のテープによる厚編化
 とあわせて、古老からの開きりも平行的
 にすすめる。後者は、幸京周辺に限るが
 としても、漁市場等の流通面も、水産製
 造、あるいは水産行政の各担当者との間
 での資料の整備もはかると、上記課題を
 補いたい。



昭和43年度 收支予算

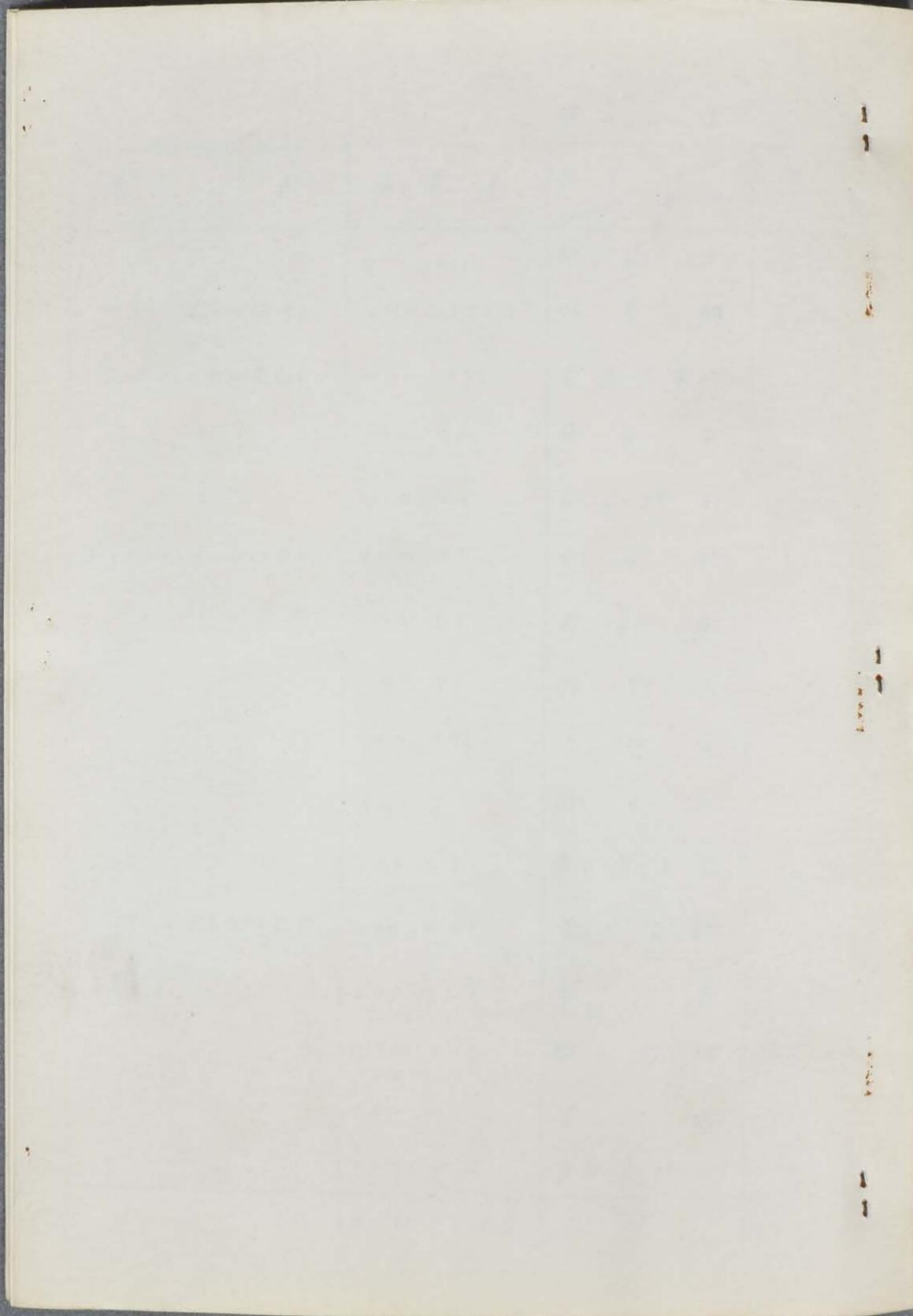
収入の部

項目 巴分	予算額	備考
定期預金利息	27.500	50万円市一銀行銀座支店
株式配当	34.000	清水建設株式 3400株
地代	1,500.000	
印税	400.000	日本市民生活総引 5巻
出版物売上金	200.000	
補助金	0	
寄附金	100.000	
委託費	150.000	青森市役所 1103 民風調査
前年度繰越金	0	
計	2,411.500	

支出の部

項目	区分	予算額	備考
役員給		0	
職員給		1,056,000	69,000 x 16
旅費交通費		100,000	交通費除却等
会合費		60,000	
消耗品費		20,000	
印刷費		90,000	民具印刷費
通信費		60,000	電話料
借入金料		60,000	
光熱費		34,000	
水道料		6,000	
資料蒐集費		50,000	
調査旅費		300,000	青島市調査費
貸		150,000	
租税公課		200,000	
雑費		24,000	
年報出版費		200,000	
計		2,411,500	

956-4



956-14

收入。部

項目	決算額
売上金	277,750
印紙収入	246,500
預金利息	35,990
地代	1,500,000
寄附金	110,000
配当金	34,000
棚卸在庫高	400,000
毎託費	150,000
計	2,754,240

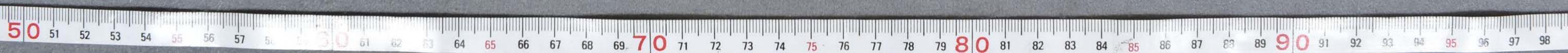
支出。部

項目	決算額
職員給	1,104,000
旅費交通費	89,440
会合費	32,557
消耗品費	21,796
通信費	63,508
共益費	24,000
印刷費	31,645
民具又221-	71,906
調査費	300,600
労賃	105,000
公租公課	190,910
雑費	18,479
年報出版費	300,000
荷送運搬費	58,280
繰越在庫	200,000
計	2,612,921

昭和四三年度

決算收支予算対照表

(四三三三一現在)





昭和四十三年度
第一回評議員會議事録

一日時 昭和四十三年四月四日 午後五時十五分至六時十五分

二場所 中央五人堂洲六三三 石巻市地階（小会議室）

三出席者 評議員 有賀喜石衛門 評議員 河岡武春
橋田勝徳 中山正則

二野親徳夫 祝 官 官 官
官本馨太郎 官本常一

評議員 網野善考 評議員 磯貝勇
市川信次 伊豆川 浅吉

江田 豊 遠藤 武

本件次によるもの

評議員 網野善考
市川信次
江田 豊
遠藤 武



12

昭和四十三年度
第一回評議員會議事録

日本常務理事
相国 人





てきました。たがたまに都下青梅市より郷土博物館建設
 にとりまわす存形無形民俗資料の調査委託を受けたり、これ
 を機会に奥多摩地域ととりあけて、民具資料の蒐集整理
 研究の場を研究所自身が持ち得る様うけとめたい。
 委託調査は三ヶ年ほどに亘りますので、本年度は予算の関係もあり
 青梅市域内の全部を対照として調査致したい。
 調査項目は文化財保護委員会による「民俗資料調査収束の
 手引」をもとに、研究所の民具台帳カードを作成し、蒐集
 資料の整理を行うと説明
 議長指名を踏まえ、全員異議なく承認した。
 議長指名を踏まえ、その他
 議長指名に依り、河国所員より現在研究所が使用してある事
 務所の間、M、Aが現在の場所を引井うづいて、なるやう



議長指名に依り、河国所員より、其の後、後任に於ける検討の経
 過ならびに、本書取書刊行に用いる有限会社、慶友社との覚
 書、交換等の状況を詳細説明し、議長より、賛否を踏り
 全員異議なく承認した。
 ◎ 議案第五号 須村史料の整理返還の件
 議長指名に依り、河国所員より、本業に關しては昭和四十二年度
 打ち切り経費として農林水産庁より資料整理調査委託費
 の助成を受け、大部分の資料返還を終了し、残りましたが、尚
 四十三年度に於て執行を要する状態にある旨を報告し
 議長より、賛否を踏り、全員承認した。
 ◎ 議案第六号 在表民具実態調査の件
 議長指名に依り、河国所員より、研究所再建の具体的あり方
 として、民具調査のフィールドを東京近傍に持ちたいとの念願し





議長

有見嘉九衛門

署名人

櫻田勝徳

署名人

二野瓶徳夫



行目
土庫浦十八字加
九行目三十七字加

早急に明渡しを請求せられておりました。本茶店の赤字が却て
に適当な場所を心掛けたが、相当膨大な図書に収
容し且つ至急所として使用し得る場所が見附かりました。た
ま、武蔵野美術大学の第一校舎三階の一四号室を下見致
しましたところ、室の廣さも充分であり、膨大な図書の整理、保
管に便利且つ青梅市より委託の重業の遂行上、今後の
活動にも有利である等の長から、全社を借用し急遽に移
転致した。説明書も、
積否両論あり結局財団法人事務所
現在のままとし分庫を武蔵野美術大学に設け活動と継続することに全社移成する
議長より現下の状況下では先づ此案を得まいと考へられるの
で、お積成を願う。以上、暗黙全社承認の旨と申す。





昭和四十三年度
第一面理事人會議事録

一日 時 昭和四十三年四月四日 午後六時半 - 八時

二 場所 中央区八重洲六丁目三番地 石興ビル地階 (小會議室)

三 出席者 理事 百賀喜左衛門 理事 中山正則

◎ 議事 議事録 藤田勝徳 官本常一

九号加
一 序言 一 序加 二 議事 議事録 藤田勝徳 官本常一

四 議事 議事録 藤田勝徳 官本常一
百賀喜左衛門 議事録 藤田勝徳 官本常一
中山正則 議事録 藤田勝徳 官本常一

第一面理事人會議事録



Blank lined page with faint vertical lines.



以上で全議案を終了し議長閉会を宣した。

昭和四十三年四月四日

議長 有賀善九 御門

署名人 中山正則

Vertical handwritten text in Japanese, including names and official titles.

